

Satoumi-GAPRA国際Workshop報告

柳 哲雄

上記のWorkshopが2013年3月13～14日、インドネシアのジャカルタとカラワンで、PICES (the North Pacific Marine Science Organization) とインドネシア応用技術庁の共催により、日本から3名、アメリカから2名、インドネシアから約100名の参加者を得て、開催された。

13日（水）は4つのセッションからなるシンポジウムが行われた。第1セッションでは中央水産研究所の牧野博士がこのWorkshopの目的を紹介し、柳がSatoumiの基本概念と日本における里海創生例を紹介した。第2セッションではインドネシア水産庁からインドネシア全土の養殖業の現状、インドネシア・サンゴ礁保全委員会からサンゴ礁保全のための地域知と科学的知見の統合、西ジャワ州水産局から西ジャワ州の養殖業の現状、についての報告が行われた。第3セッションではカラワン海岸におけるSatoumi-GAPRA（インドネシア応用技術庁と西ジャワ州水産局による西ジャワ海岸復興プロジェクト）共同事業として行われた複合種養殖の実験結果とその数値モデルの紹介、HAB(Harmful Algal Bloom)を予防するためのPICESの活動報告、Satoumi創生のための社会・人文科学的知見の紹介、が行われた。第4セッションでは西ジャワ、南部スラウェシ、リアウ島嶼域、スマトラ島南部での養殖業の現在の問題点とSatoumi創生に対する期待が述べられた。

最後に行われた総合討論ではカラワンでの複合種養殖実験の成功に刺激され、インドネシア全土でSatoumi概念の応用としての沿岸海域漁業・養殖業の振興に大きな期待が寄せられていることが明らかとなり、PICESとしても「環太平洋圏における里海型漁業管理システム構築事業（2012-2016）：日本の水産庁がスポンサーで、2012年度予算は1,200万円」プロジェクトのもと、インドネシアにおけるSatoumi創生マニュアル作りを目指すことが確認された。

14日（木）は、約50名の参加のもと、カラワン海岸にある西ジャワ州汽水域養殖センターの視察が行われた。このセンターではSatoumi-GAPRA共同事業として、テラピア・エビ・海草・イガイの多栄養段階複合種養殖（生物多様性）実験が行われ、テラピア・エビに関してそれぞれ單一種養殖より大きな成長率を得（生産性）、水質も單一種養殖より良い（ゼロエミッション養殖・持続可能性）という結果が得られた。インドネシア各地の養殖関係者やアメリカの参加者からセンター長と現場責任者に対して、この実験に関する多くの質問が行われた。

2日間を通じ、多くのインドネシア人が自らの意見発表や小生への個人的な質問の中でSatoumiという言葉を、正確な日本語に近いイントネーションで発音するのを聞いていると、この概念の広がりを実感するとともに、何やらこそばゆい気分であった。

Konsep Sato Umi Budidaya Perikanan Ramah Lingkungan

Rabu, 13 Maret 2013 | 16:59



Ilustrasi budidaya perikanan [google]

[JAKARTA] Badan Pengkajian dan Penerapan Teknologi (BPPT) menawarkan konsep terbaru pengelolaan, budidaya perikanan, pesisir, kelautan berkelanjutan melalui teknologi produksi perikanan budidaya ramah lingkungan atau Integrated Multi-Trophic Aquaculture (IMTA).

Konsep yang kemudian diperkenalkan dengan sebutan Sato Umi ini merupakan hasil kerja sama BPPT dengan North Pacific Marine Science Organization, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries of Japan dan Fisheries Research Agency of Japan.

Berita Terkait

- Usaha Perikanan Budidaya Masih Ditagantangi Pengusaha Kecil

Deputi Kepala BPPT Bidang Agroindustri dan Bioteknologi Listyani Wijayanti mengatakan konsep Gerakan Masyarakat Peduli Kelestarian-Sumberdaya Perikanan, Pesisir dan Laut (GEMPITA-SPL) dan Sustainable Utilization of Fisheries, Coastal and

Marine Resources for Society (SFICoMS) bersama dengan konsep Sato Umi akan terus dikembangkan untuk mendukung kegiatan pembangunan sumberdaya perikanan, pesisir dan kelautan secara berkelanjutan dan harmonis.

"Pengembangan dan pemasarkan IMTA, berbasis sistem biresirkulasi untuk lahan tambak terbengkalai (idle) yang telah diuji BPPT di Pantai Utara Karawang untuk mendukung program Gerakan Pembangunan Pantai Utara Jawa Barat (GAPURA)," katanya di sela international workshop Sato Umi-GEMPITA SPL-GAPURA di Jakarta, Rabu (13/3).

Satoumi Workshopの開催を報じるインドネシアの新聞